

家庭学習のすすめ ～自ら学ぶ子をめざして～

1 「宿題」から「家庭学習」へ

確かな学力を身につけ、「自ら学ぶ力」を育てるためには、学校での授業だけでなく、「家庭学習」が大切なやくわりを果たします。

「家庭学習」といえば、「宿題」というイメージがあるかもしれませんが、中学校へ進学すると「自ら学ぶ力」が求められます。また、確かな学力は、やらされる「宿題」によってではなく、主体的な学びによってこそ、効果的に定着するものです。そこで、受け身の「宿題」から、自ら学ぶ「家庭学習」へと意識を変え、小学校の今から先を見すえて、学校と家庭とで子どもたちの学びを支えていきたいと考えます。



2 学校と家庭のやくわり

それぞれの「やくわり」を明確に意識し、学びを支えていきましょう。

学校のやくわり	① 効果的な 学び方を教える ② 必要な「 課題 」を 与える (※) ③ 児童にあった 支援を行う
家庭のやくわり	① 家庭での 学習習慣を身につけさせる ② 学習の「 見届け 」を行う ③ 子どもの がんばりを認め、励ます

※ドリルなど、学習の進み具合に応じた課題は、これまでどおり与えます。

3 家庭学習の3つのポイント

- ① 学習環境を整える（学習する決まった場所をしっかりとつくる）
- ② 規則的な生活習慣により、学習習慣を身につけさせる
- ③ 見届けをきちんと行う

4 学年に応じた家庭の見届け

発達段階	身につけさせたい「学びの姿」	家庭の見届け
低学年	家庭での学習習慣を身につける段階 ＜時間の目安＞20～30分	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの前で「<u>〇つけ</u>」を親がする ・間違い直しまでやる習慣をつける
中学年	自主的な学びの基礎ができる段階 ＜時間の目安＞40～50分	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもによる「<u>〇つけ</u>」や間違い直しを助け、見届ける
高学年	自分で決めて学ぶ段階 ＜時間の目安＞60～70分	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの見守りやアドバイスをする ・ほめて、自尊感情を高める

- 学びの姿には、個人差があります。その子に応じた支援をお願いします。
- 家庭の都合で見届けが困難な場合は、担任と相談しながら、できる範囲で支援をお願いします。